



2026 年 1 月 20 日

報道関係者 各位

頚椎手術後に起こる「腕が上がらなくなる症状」に、手術中の血圧変動が関係している可能性
— 群馬大学整形外科が、術中の血圧管理と術後合併症との関連を報告 —

群馬大学大学院医学系研究科整形外科学の研究グループは、首の骨（頚椎）の手術後に起こる合併症のひとつである「**C5 麻痺（シーごまひ）（*1）**」と、手術中の血圧の変動との関係について調べ、**手術中に血圧が大きく上下した患者さんほど、この症状が起こりやすい可能性がある**ことを明らかにしました。

C5 麻痺とは、頚椎の手術後に、肩や腕の筋肉に力が入りにくくなり、「腕が上がらない」「肘を曲げにくい」といった症状が出る状態で、約 5%の頻度で発生するといわれています。多くの場合は時間とともに改善しますが、回復までに時間がかかることもあり、日常生活や仕事（社会復帰）に支障をきたすことがあります。

これまで、C5 麻痺がなぜ起こるのかははっきりわかっていませんでした。そこで研究グループは、過去に行われた頚椎手術の記録を調べ、手術中の血圧の変動幅（いちばん高い値と低い値の差）に注目しました。その結果、**血圧の変動が大きかった患者さんほど、手術後に C5 麻痺が起こりやすい**ことがわかりました。この関係は、年齢や性別、体格といった患者さんごとの違いを考慮した後でも認められました。

今回の研究結果は、**手術中の血圧をできるだけ安定させることが、術後の合併症を減らすために重要**である可能性を示しています。

この研究成果は、2026 年 1 月に脊椎や脊髄の病気を専門に扱う国際的な医学雑誌「**Clinical Spine Surgery**」に掲載されました。

1. 本件のポイント

- 高齢化により、首（頚椎）の病気で手術を受ける人は増えています。
- 頚椎の手術後には、まれに「腕が上がらなくなる」C5 麻痺が起こることがあります。
- 今回の研究で、**手術中の血圧の変動が大きいと、「C5 麻痺」が起こりやすい可能性**が示されました。
- 手術中の血圧管理をより丁寧に行うことで、この合併症を防げる可能性があります。

2. 研究成果の意義と今後の展望

今回の研究は、過去の診療データを基に実施した調査研究です。今後は、さらに多くの患者さんを対象とした検討を進め、結果の信頼性を高めていく予定です。将来的には、**手術中の血圧管理の工夫が、より安全な手術につながる**ことが期待されます。

3. 掲載論文

掲 載 雑 誌 : Clinical Spine Surgery (脊椎脊髄疾患に関する国際医学雑誌)

タ イ ト ル : Intraoperative blood pressure variability is associated with postoperative C5 palsy in elective cervical spine surgery:
A retrospective observational study

筆 頭 著 者 : 津久井 俊樹 (Toshiki Tsukui)

責 任 著 者 : 高澤 英嗣 (Eiji Takasawa)

研究代表者 : 筑田 博隆 (Hirotaka Chikuda)

所 属 : 群馬大学大学院医学系研究科整形外科学

【本件に関するお問合せ先】

群馬大学医学部附属病院 整形外科 高澤 英嗣 (たかさわ えいじ)

【取材に関するお問合せ先】

群馬大学昭和地区事務部総務課広報・保健学庶務係

TEL : 027-220-7895、FAX : 027-220-7720

E-MAIL : m-koho@ml.gunma-u.ac.jp

【用語解説】

*1 C5 麻痺

頸椎の手術後に発生する合併症で、上肢挙上障害(腕が上がらない、肘が曲げにくい)といった症状が出る。その原因や予防法に関しては、未だにはっきりしたことがわかっていない。約 5%の頻度で発生するといわれている。